



内田 雅人 議員

質問

脱炭素宣言の取組の具体案は

町長

太陽光発電や森林資源活用を

— 奥出雲町における脱炭素社会の実現を目指した取組み(例示) —

- ① 再生可能エネルギーの導入推進(太陽光・蓄電池、バイオマス、水力)
- ② 遊休地等における営農型太陽光発電(ソーラーシェアリング)の検討
- ③ 太陽光発電を利用した歩道融雪設備の導入検討
- ④ 環境にやさしい自動車(電気自動車(EV))の導入促進
- ⑤ 自然と共生した資源循環型の林業振興(保全、整備、木材利用の促進)
- ⑥ SDGs未来都市の選定
- ⑦ 環境教育(木育)の推進(幼少期からSDGsへの理解と促進)
- ⑧ 住宅、建築物の省エネ性能向上(高断熱、高効率設備の導入)
- ⑨ 町有林J-クレジット制度の導入



奥出雲町脱炭素宣言 9つの取組み

質問 奥出雲町脱炭素宣言は脱炭素社会の実現を目指すことを決意したもので、環境だけでなく持続可能なまちづくりの面からも大いに賛同する。

宣言では実現を目指す取組みが9つ示されたが、具体的な考えやアイデアがあるのか。

町長 家庭における再生可能エネルギー設備の導入を進めるため、現在の助成制度を見直す。太陽光発電設備は公共施設への設置を進めたい。

また営農型の太陽光発電について導入を促進し、農家の収入増も併せて農業の振興を図る。どのような作物が適しているのか。



進み出した4つのまちづくり

質問 糸原町長が就任されて一年が経とうとしている。総力戦のまちづくり「奥出雲創生」をスローガンに掲げられ、政策の柱となる4つのまちづくりの理念を示されたが、ここまでの自己評価は。

町長 4つのまちづくりを進めていきたくと改めて思う。体制も総力戦ということで4月の機構改革も行い、整ってきた。職員ともひとり一人面談をしながら思いを一緒にするよう取り組んでいる。この

糸原町政一年間の自己評価は

るか、国、県、民間事業者から助言をもらい進めたい。

町面積の約83%を占める森林資源の活用は、森林整備を適正に行い、原木生産、

木製製品の開発による木材利用、昆虫等と触れ合える森づくりでの空間利用、後継者の確保対策に取り組む。

環境教育の推進の

ために幼少期から木材に触れるよう、子供たちへ木製玩具をプレゼントするウツドスタートにも取り組む。

その他の質問

一年で、できてない部分もあるが、何とか進み出したかというところだ。

環境政策やDXの計画はようやく固まりつつあるが、子育てと教育についてはまだだ。若い人や女性の方と議論する場を設けたい。医療と介護も含め、将来に向けた取り組みを推し進める。

松江高専や民間企業との連携協定のねらいは